

令和2年度 校内研修会

「児童生徒が、自ら考え、学びたくなる授業づくり
～適切な実態把握と目標設定を通して～」

- 1 目的 国語の指導を行うために必要な実態把握や、その実態把握に基づいた目標設定に生かす取組について理解を深め、授業力の向上を図る。
- 2 日程 令和2年9月25日（金）16：00～17：00
- 3 会場 広島県立呉特別支援学校（プレイルーム、会議室1及び会議室2）
- 4 内容 講義及び演習

「児童生徒が、自ら考え、学びたくなる授業づくり
～適切な実態把握と目標設定を通して～」

講師 認定NPO法人 やまぐち発達臨床支援センター 理事長 川間 弘子先生



本校では、国語と算数・数学を他の教科と合わせた指導として行っていましたが、今年度からそれぞれ教科の指導として行う事になりました。そこで今回の研修では国語の指導を行うため文字の習得などについて、講義を受け演習を行いました。子どもと対面で向き合い子どもの視線の先を見ること、子どもの瞬間の行動を見逃さず発達段階を知ることが大切であること、また子どもの力をたくさん引き出すために、「ちがう」（否定）「はやく」（命令）、「だめ」（禁止）という言葉を使わないように指導をしていくことも大切であることを研修しました。

～文字学習前に備えておく力は？～

文字は意味を持った記号

- ① 形がわかること
- ② 言葉の理解
- ③ 目で手をコントロールできること

～形を弁別させる演習を行いました。～

ステップ① 見分けの段階

子どもが手元に一つの型を持ち、
型はめの相手が二つの形のパターン



ステップ② 見比べの段階

子どもが二つの型を手元に持ち、型はめの相手が一つの形のパターン。（①に比べ、確認する段階がたくさんある）

※子どもがよく見て行うようになると、子どもの動作はゆっくりになってくる。

～「なぞりがき」をさせるためには？～

- ・始点と終点を意識させる。
- ・手を外側から握りこんで、子どもが鉛筆を握りやすい角度に固定してあげる。
- ・椅子と机の高さの調整も大事。



コロナ対策をし、
三つの会場に分かれて研修を行いました。

